

いわき新時代へ

考

察



内田 広之さん

技術革新で課題増加 フル動員し解決策を構成

ここ数年間で、教育に求められるものが大きく変化しています。従来どおり、教科書から、「知識・技能」を習得し、その後、職業人として生きていければいいという時代は、既に終わっています。

スマホ・AI（人工知能）の出現など、技術革新も急速ですし、原子力災害、地球温暖化、大規模豪雨災害など、解決が難しい社会現象も増えています。学校で明確な「解」を示せない課題が増加しているのです。

これからは、定型化された「知識・技能」のインプット

だけではなく、社会のうねりや、難問と向き合い、解決に立ち向かうスキルを身につけていくことが、教育の視点で、重要です。

「傾聴」できる人は、「話も上手い」と聞きますが、その意味するところは何でしょうか？
相手の話の興味そのものに、「会話のヒント」があり、相手の言葉に集中することで、「会話の途」を開けるこ

寄り添いサポートを

皆さんは、「傾聴」という言葉をご存じでしょうか？他人の意見や言葉に、しっかりと耳を傾けるといふ意味です。「傾聴」できる人は、「話も上手い」と聞きますが、その意味するところは何でしょうか？
相手の話の興味そのものに、「会話のヒント」があり、相手の言葉に集中することで、「会話の途」を開けるこ

親の子育ての視点は、この「傾聴」に類似しています。親は、他人の話を「傾聴」するように、子どもの好きなことにじっくりと寄り添い、サポートする姿勢が必要で、例えば、鉄道、サッカー、野球、そろばん、歴史、音楽、絵画、恐竜など、何でもいいのです。子どもが好きなことを受け入れてあげて、周りの大人が全力で応援することで、子どもにはたくさんの知識や経験、感性、時には失敗と克服力が、備わっていくのです。

親が「傾聴」するような姿勢で子どもの好きなことを受け入れてあげれば、一人ひとりの子どもの中に、特筆すべき個性や才能をたくさん見いだすことが出来ます。そして、それらを褒め、伸ばすのです。先の「構成主義的学習論」との関連で言えば、子どもが好きなことを通じて学んだことは、解決策を「構成していく」ための豊かな栄養素になっていきます。この栄養素を身につける環境を用意する

親・教師の教育

親の教育です。一方、教師には何が求められるのでしょうか？

教師の役割は、「構成主義的学習観」を照らして言えば、個々の児童・生徒が、これまで培ってきた知恵、知識、感性など、内面にあるものをうまく引き出し、課題解決を支援することです。

これからの教師は、AIとも、向き合っていかなければなりません。前号でも書きましたが、AIは、「個別最適化」という能力を兼ね備えています。コンピュータ上の練習

問題では、一人ひとりの子どもの学力に対応した分野やレベルを、最適化して出題します。

従来の大人数を対象にする一斉授業より、とても効果的ですから、知識のインプットという意味では、AIは大きな効果を発揮するでしょう。しかし、だからと言って教師が不要になるわけではありません。

AIが担えるのは、「知識」の部分に限られます。そして、それ以外、つまり、知恵、感性、知識、失敗の経験などA

Iで処理できない領域を、子どもから引き出して、課題解決の道筋づくりを応援するのが教師の役割になります。

調整役の役割も

そこで、教師には人間力に加えて、調整役（コーディネーター）の役割が求められることとなります。

具体的には、日々、一人ひとりの児童・生徒の顔色や人間関係、教室の雰囲気などを俯瞰し、元気がなさそうな子ども、顔色の悪い子どもには、特別に声をかけたり、グループ学習で相性の良い仲間

同士で、つながって学ばせたり、という工夫が必要になります。

（前福島大学理事・事務局長、東日本国際大学客員教授、内田広之）



技術革新がハイスピードで進む現在。これに伴い、親、教師も子どもたちに対する教育の指導方法が様変わり始めてきた。写真とは関係ありません。

執筆者

うちだ・ひろゆき

いわき市出身。草野小・中、警城高、東北大学教育学部卒、東京大学大学院修了。1996（平成8）年4月に文科省入省。文科省の教育改革推進室長、企画官、福島大学理事・事務局長などを経て、本年1月より、東日本国際大学・地域振興戦略研究所所長。48歳

【家族、趣味】

妻と高校2年の長男との3人家族。趣味は、妻とともに、市内の自然散策。また、現在、剣道4段で、近々、5段にチャレンジ予定

■ 入試日程 ■

募集区分	出願期間	開校日
特待生入学募集（第2回）	2月1日（月）～ 3月10日（水）	3月17日（水）
第5期募集 （指定校推薦・推薦・一般）	随時受付	随時実施
社会人対象 （推薦入試・一般入試） ※受験料免除		

いわきコンピュータカレッジ

〒971-8185 福島県いわき市泉町4-13-12 info@iwak-cc.ac.jp

いわきコンピュータカレッジは、厚生労働省が情報処理技術者の養成を目的として全国に設置したカレッジのひとつです。地域の産業を支える情報技術者を養成する施設として平成3年4月に開校いたしました。理事長は、いわき市長です。卒業生1,400人以上が地域で活躍しています。

オープンキャンパス

いわきコンピュータカレッジに興味のある方誰でも参加OK。

参加特典
入学試験受診料
10,000円を免除

■ 参加日時 ■
開校日 2月27日（土）
時間 9:00～12:00
■ 内容 ■ 校内見学・体験学習
進学相談

就職に強い！個性は才能！
「コンカレ」 伸びせ！才能「コンカレ」！

高い就職率！平成25～令和元年度は7年連続で100%！

機器更新・全コンピュータシステムが最新に！！

NAO ヒューマノイドロボット
Phantom 4 Pro+

最新のコンピュータシステムと、最先端の設備で技術的に
定評があります！11ヶ所（スーパーコンピュータセンター、10ヶ所）のハイスペック、130ヶ
所（MR、VR）のVR/ARセンターが充実しています。